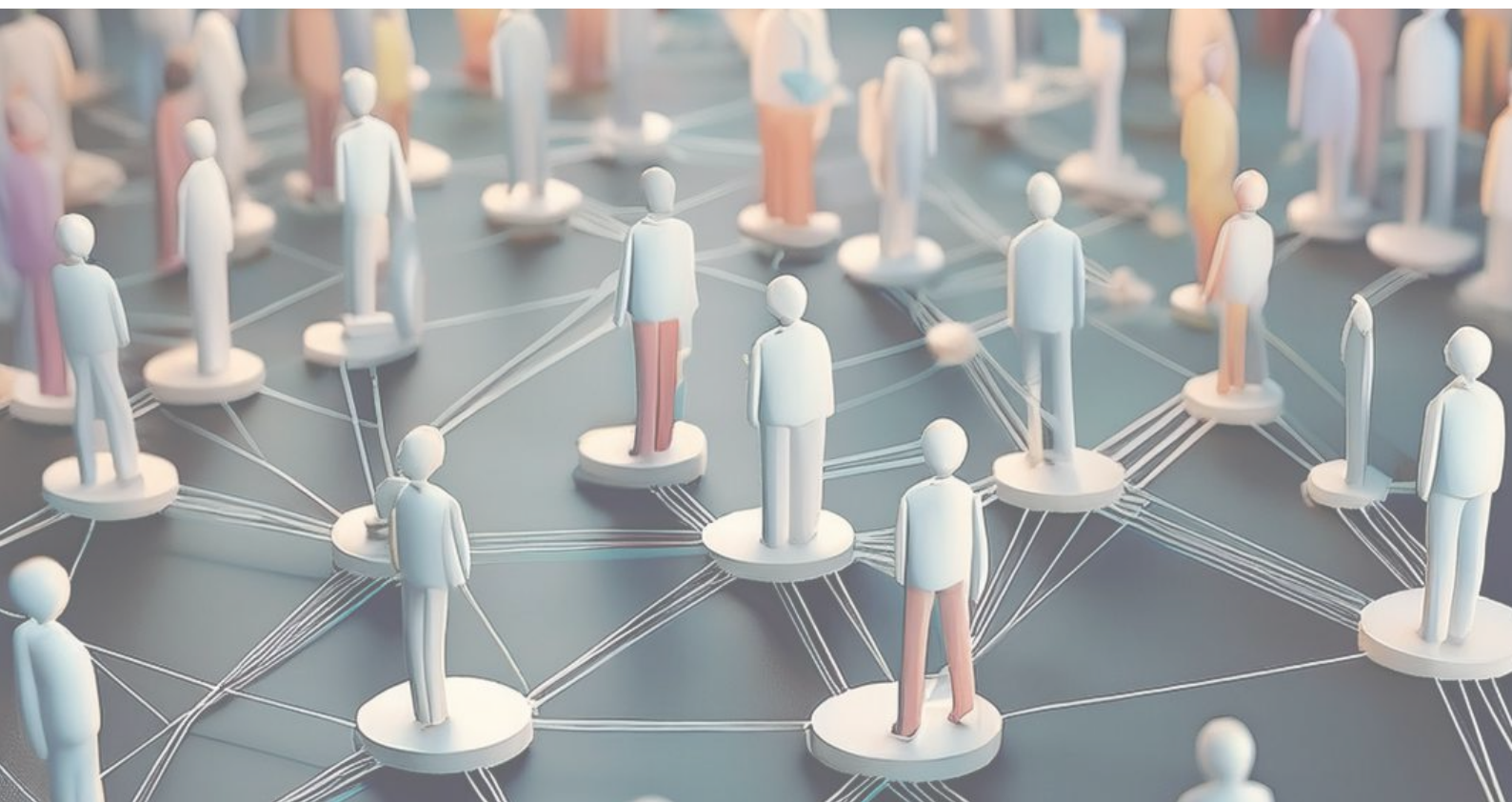


地域循環共生圏づくり支援セミナー2024

「環境とともに地域の経済（なりわい）・社会（人々の暮らし）をつなぐ地域循環共生圏づくりとは」
トークセッションより

“地域循環共生圏になっている” とはどういうことか？



地域循環共生圏とは何か？

5人のパネリストと探る持続可能な地域づくりのヒント

2025年1月、EPO中部は「地域循環共生圏づくり支援セミナー2024」をオンライン開催しました。

地域循環共生圏は地域の主体性を基本としつつ、地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会の統合的な向上を目指す、自立・分散型社会実現に向けた重要な概念です。

しかし、実際に地域が“地域循環共生圏になっている”とはどういうことなのでしょう。

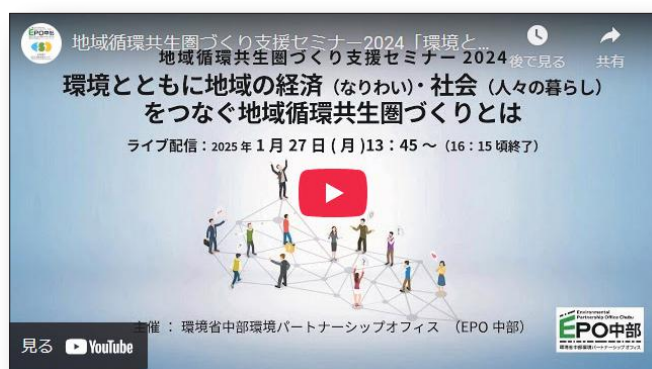
セミナーでは5人のパネリストをむかえ、地域循環共生圏が包含する多角的な側面を掘り下げながら議論するトークセッションを行いました。本誌はその内容をまとめています。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024について

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024

環境とともに地域の経済（なりわい）・社会（人々の暮らし）をつなぐ 地域循環共生圏づくりとは

- ・ライブ配信（録画）日：2025年1月27日
- ・セミナー録画をEPO中部ウェブサイトで公開中 ➡自由にご視聴できます。
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/27663.html>



■ プログラム／ご登壇者

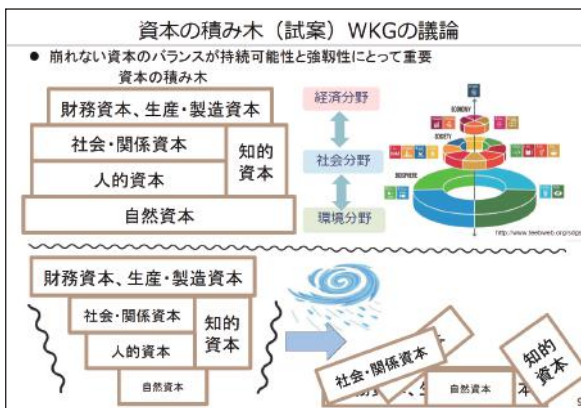
1. ごあいさつ／地域循環共生圏とは
環境省中部地方環境事務所
2. 【基調講演】地域循環共生圏づくりにおいて大切なこと
鬼沢 良子 氏（NPO持続可能な社会をつくる元気ネット・理事長）
3. 【講演/情報提供】地域経済循環分析について～地域循環共生圏づくりに向けて～
佐原 あきほ 氏（株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長）
4. 【トークセッション】“地域循環共生圏になっている”とはどういうことか？
パネリスト：
鬼沢 良子 氏（NPO持続可能な社会をつくる元気ネット・理事長）
佐原 あきほ 氏（株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長）
堺 勇人 氏（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長）
古澤 礼太 氏（中部大学国際ESD・SDGsセンター 准教授）
水上 聡子 氏（アルマス・バイオコスモス研究所 代表）
コーディネーター：
原 理史（EPO中部）

次ページ以降に【トークセッション】のテキスト記事を掲載しています ➡➡➡

鬼沢氏の基調講演と、佐原氏による講演を含めたセミナー全体を録画した動画や、環境省中部地方環境事務所による地域循環共生圏の概説資料、ここに掲載したトークセッションのスライド資料をEPO中部ウェブサイトで公開しています。そちらもぜひご覧ください（本誌p1参照）。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024 トークセッション 「"地域循環共生圏になっている"とはどういうことか？」

これに対して、IIRCという国際組織のレポートに6つの資本という考え方があります。持続可能な社会を構築するためには、財務資本、製造資本、知的資本、人的資本、社会・関係資本、自然資本の6つの資本を使って活動し、それぞれの資本に対してその結果を蓄積していかなければいけないと言っています。そこで、ローカルSDGs活動においてもこのような価値基準を置こうと考えています。



では、6つの資本をどのように積み上げるのかということですが、SDGsの重要な概念にウェディングケーキモデルというものがあります。それをふまえると、自然資本を一番下に、その上にその他の資本が載っているような構造が地域にあるようにしなくてはならないと考えました。

地域循環共生圏取組チェック（評価）項目の検討：WKGの議論

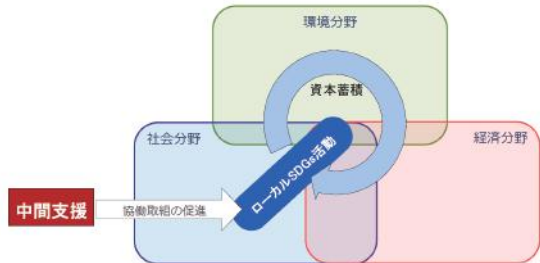
- その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がっているか、事前チェックリスト(案)

6つの資本	評価項目の例
1 財務資本 (地域循環 財務資本)：地域内での経済循環になっているか	● 地域にお金を落とすようになっているか ● 地域への投資になっているか ● 地域経済を自給しているか
2 製造資本 (地域循環 生産・製造資本)：地域経済、エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	● 資源循環を自給しているか ● 再生可能エネルギーを有効活用しているか ● 防災・減災に役立っているか
3 知的資本 (地域共生 知的資本)：地域の文化、知恵などが生かされているか、水準の高い知見が用いられているか	● 様々な場面で教育を進めようとしているか ● 住民自治を取り入れようとしているか ● 伝統的文化、知恵を活用しようとしているか ● 高齢化の導入をしようとしているか ● ICT活用を進めようとしているか
4 人的資本 (地域共生 人的資本)：地域の多様な人々が共生できているか	● 主体的、意欲的な人がいるか ● 若者、若手、責任者がある人がいるか ● 市民社会を担っているか
5 社会関係資本 (地域共生 社会関係資本)：地域の繋がりが、コミュニティに繋がっているか	● 対話の場を設けようとしているか ● 相互信頼を醸成しようとしているか ● 公正さに働きかけているか ● 共助を取り入れようとしているか
6 自然資本 (地域循環共生 自然資本)：地域の自然・生物多様性が守られているか	● 生物多様性を守ろうとしているか ● グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ● 防災機能を果たしているか ● 自然資源の保全活用を進めようとしているか ● 農地・森林を持続可能な形で使おうとしているか

このような考え方のもと、6つの資本が増えていくような事業になっているかどうかを確認するチェックリストを、ローカルSDGs活動の評価ツールとして試作しました。

中間支援と協働取組：地域循環共生圏を念頭に

- 地域循環共生圏における中間支援
協働取組を通じて社会、環境、経済に関わる資本を蓄積させる



また、それぞれの資本の蓄積を促すものとして、中間支援による協働取組が行われる必要があると考えています。

ローカルSDGs活動とその評価

「地域循環共生圏になっている」とはどういうことか？

- 地域循環共生圏【本議論の定義】

地域循環共生圏は、地域の主体性を基本として、地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会を統合的に向上していく事業を生み出し続けることで、地域課題を解決し続ける「自立した地域」をつくとともに、それぞれの地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」の実現を目指すものである。その際、私たちの暮らしが、森田川海沿いの暮らしからもたらされる自然資源を含めて地上資源を基盤として成り立つようにしていくために、これらの資源を持続可能な形で活用し、自然資本を維持・回復・充実していくことが前提となる。

1. 自立した地域をつくるため生み出す「地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会を統合的に向上していく事業」＝「ローカルSDGs活動」とは？
・三つの分野で資本を積み上げるといえる考え方は？
・その方法(中間支援など)やそのためのお金(地域経済循環など)は？
2. 「地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する」とは？
3. 前提となる「自然資源を含めて地上資源を基盤として成り立つようにしていくために、これらの資源を持続可能な形で活用し、自然資本を維持・回復・充実していく」はどのように？

原 ここまでお話しした、ローカルSDGs活動は環境・社会・経済の3つの分野で資本を積み上げるといえる考え方やその評価方法、中間支援、地域経済循環はどうあるべきかについてご意見をお聞かせください。

鬼沢良子（以下、鬼沢） さまざまな視点から総合的に評価することは重要だと思います。数カ月程度の活動で自然資本がどう変化したかを評価するのは困難ですが、評価されることで次のステップに進む際の指標が得られます。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
トークセッション
「"地域循環共生圏になっている"とはどういうことか？」

佐原あきほ（以下、佐原） 環境を土台に社会・経済が成り立つという環境基本計画やSDGsの考え方に即した整理は、妥当と思います。また、それら全体に通じるものとしてウェルビーイングという視点があります。地域循環共生圏で目指す姿はそれぞれの地域が考えることになっていますが、共通の考え方としてこのようなチェックリストがあるとよいと思います。

古澤礼太（以下、古澤） 地域循環共生圏とはSDGsの達成を地域単位で考えていくことに近いと思いますが、その評価は難しいですね。私は森里川海をキーワードとして、SDGsも含めた地域循環共生圏を実現するためのネットワークづくりに取り組んでいます。そのときに、それぞれの活動が何に資するかだけでなく、それが地域づくりにどうつながっていくかが重要ではないかと考えています。とすると、活動だけでなく、成果に対する評価にもつながるのではないかと思います。

堺勇人（以下、堺） 地域循環共生圏では曼荼羅図のような最終的な姿は描かれていますが、そこに近づくために誰が何を基準にアクションを起こすのが重要です。ワーキングでは、そこに注目して6つの資本に分けて活動を評価する視点を整理しました。

水上聡子（以下、水上） 活動を自己満足で終わらせないためにも、評価指標は重要です。アウトプットだけでなく、アウトカムも評価に加えることで成果の評価につながります。

中間支援の役割

原 SDGs活動を促進するためには、中間支援や協働が重要な役割を果たすとされていますが、中間支援のあり方について、どのようにお考えですか。

堺 プラットフォームは複数あるとよいと思います。環境分野に強いプラットフォーマーも人権や社会・経済にも関心を持ち、他の分野を得意とする団体と協力し合うことでよりバランスのとれた活動ができるようになって感じています。

鬼沢 関心事はそれぞれ違うので、活動を促すためには自分ごと化するきっかけをいかに提供するのが重要になると思います。

水上 中間支援の立場から、各団体の強み・弱みを指摘することが重要です。環境活動では特に経済的な視点が抜け落ちがちです。

経済の視点

原 地域循環共生圏では経済的な視点が抜け落ちやすいという点についてどのようにお考えでしょうか。

佐原 地域資源を組み合わせながら最大限に活用し収益化できるようにしていく視点を持つと、環境・社会・経済に相乗的な効果が生まれるように思います。

古澤 経済の視点は非常に重要です。特に地域に根差した生業や経済がサステナブルな社会のキーになると感じています。

原 地域の生業が重要であるとのこと指摘ですが、経済規模が大きい方が効率的であるように思いますが、いかがでしょうか。

佐原 環境基本計画には大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済システムからの脱却という考え方があります。そこを地域から変えていくという視点が地域循環共生圏に入っていると考えています。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
トークセッション
「"地域循環共生圏になっている"とはどういうことか？」

古澤 地域循環共生圏においては、課題解決だけにとらわれず、ポジティブに生業や経済を意識していくべきではないかと思います。

水上 経済が変わらないと脱炭素は進みませんからローカル経済の視点はとても重要です。また、どのスケールの活動も大事なので内容によって選択し成果を出していけばよいと思います。しかし、ウェルビーイングは個人に関わるものであり、個人の視点は不可欠です。

ローカルSDGs活動とウェルビーイング

原 ローカルSDGs活動におけるウェルビーイングはどのように捉えればよいのでしょうか。

鬼沢 個人のウェルビーイングがどれくらい増えたかを測ることはできないと思いますが、地域への愛着や誇り、責任感を持つ人が増えることが重要です。やりがいや地域への愛着はアンケートをすればわかります。

水上 坂井市の市民協働事業には8つのウェルビーイング指標があり、誇り、愛着、自己実現、安全安心、人権等を数値化しています。

堺 地域循環共生圏は人々が幸せに暮らせる地域を目指すものであり、それは一人ひとりのウェルビーイングの集積であって、中心は人であることを忘れてはいけません。

古澤 流域治水のような地域のつながりのなかで信頼関係ができたり、文化の共有によって愛着が生まれたりするのではないのでしょうか。そのためには、6つの資本のなかの社会・関係資本が重要になると思います。

地域内循環とネットワーク

原 地域循環共生圏の定義に「地域同士が支え合う」と書かれています。地域同士のネットワークと地域内の経済循環とのバランスについてはどのようにお考えでしょうか。

佐原 得意なところは自分たちでがんばり、不得意なところは外部に任せるという相互依存の関係を組み立てていくことが重要だと思います。そのバランスは試行錯誤で見つけていけばよいのではないのでしょうか。

鬼沢 課題解決に取り組んでいる地域が多いようですが、その際にそれを得意とする人たちと補い合うための中間支援が必要です。

古澤 マッチングをしていく際には、すぐに成果を求めないことも大切です。

鬼沢 ネットワークの重要性は、今まで出会ったことのない人たちとの出会いによって新しいことが生まれるところにあります。

堺 異質なものと会うことで新たな気づきを得、それが人生を豊かにしてくれます。集う機会を提供することで気づきを得る人が増えれば、いろいろな方面に意識を向けられるようになり、結果として豊かな社会になっていくように思います。

水上 マッチングは必要ですが、その前に、それぞれの活動主体が自分の強みや弱みを認識することが重要です。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
トークセッション
「"地域循環共生圏になっている"とはどういうことか？」

まとめ

原 今日話をまとめますと、地域循環共生圏とはローカルSDGs活動が生み出し続けられるということであり、それは地域の生業、生きがいやウェルビーイングをもたらすものであるべきであること。そして、それは6つの資本をベースに考えていく必要があること。やり方はいろいろあるけれども、自分たちがやりたいと思える動機が大切で、自分たちの良いところ、悪いところを認識し、評価した上で相互依存のネットワークを形成することが重要であること。また、そこには出会いの機会の提供という中間支援の重要な役割が求められるということでした。

自然資本を維持、回復、充実させていくという話への踏み込みが浅かったかもしれませんが、示唆は出てきたのではないかと思います。

これでセッションを終わりたいと思います。
ありがとうございました。



地域循環共生圏は、持続可能な社会を実現するための重要な鍵となります。
地域循環共生圏の考え方を地域で共有し、具体的な取組を協働して取り組むことにより、皆さまの地域で持続可能な地域づくりが進められることを期待いたします。



中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）
〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F
TEL: 052-218-8605 / FAX: 052-218-8606
<http://www.epo-chubu.jp/>

発行：2025年3月